

シリーズ

「私の森語り」
もりかた森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「山は命の源」

名古屋学院大学
現代社会学部
いまむら かおる
教授 今村 薫

■自己紹介

私の専門分野は生態人類学で、人と自然の関係を探求する研究領域です。これまでアフリカや中央アジアの砂漠や乾燥地で狩猟採集や遊牧で暮らす人々の文化と生活を調査してきました。調査地から帰国する度に、日本の緑と豊かな水流の美しさと貴重さを深く感じるようになり、十五年ほど前から日本の山村の生活誌と森林利用を研究しています。

■活動内容

里山と人のつながりを知りたい、飛騨市宮川村および長野県天龍村のお年寄りから、山の生活の歴史と実態を聞き書きしています。

す。春の山菜・筍（ネマガリダケ）採りから始まり、秋のキノコ採り、鹿や猪の狩猟、一年を通じた水田の作業、さらにかつての馬・牛飼、長い冬の暮らし方などの四季に応じた在来知、四季カレンダーと組み合わせられた祭りや伝統芸能を記録しています。



天龍村例祭における奉納舞

山村には縄文時代から続く日本の知恵がたくさん蓄積されているにも関わらず、どこでも聞く言葉が「山は荒れている」といった嘆きです。戦後、植林された杉・檜が手入れされずに密集したまま放置されている現状、鹿や猪が里においてきて畑をあらす獣害、これらに対処する人々の高齢化など、問題が山積みです。

現在、私ができていることといえよ、

できるだけ様々な場に参加して体験し記録すること、学生への啓蒙です。

これまで学生を引率して行ってきたことは、いなべ市での林業実習、郡上市の里山保全組織『猪鹿庁』での狩猟体験、飛騨市宮川村におけるフィールドワーク、犬山市での竹林整備と土中環境改善ワークショップなどです。

また、二〇一六年の『山の旦』制定にともない、畠山重篤氏（特定非営利活動法人「森は海の恋人」代表）を大学に招いて公開シンポジウムを開催しました。海の水産物を育てているのは、山の落ち葉や



学生林業体験（いなべ市）



学生狩猟体験（郡上市）

有機物が河川を経て流れ着いたものであることを、学生や聴講してくださった一般の人々が理解してくれたのではないかと思います。

■メッセージ

日本は、山に降った雨水が土中に潜り、その後、何度も地表に出ては地下水脈に戻るを繰り返した水流が、最終的に海洋に出ます。その意味で、日本の山は大きな水甕です。そして、その山に分け入れば、そこには多様な動植物が生きており、人間は生き物たちの時間に合わせて生きてきました。すべての命の源である山と森林の貴重性、重要性を、今後も発信していきたいと思っています。

■連絡先

名古屋学院大学熱田区熱田西町1-25
名古屋学院大学現代社会学部・
今村研究室

[https://k-imamura.com/
PSCA/contact.html](https://k-imamura.com/PSCA/contact.html)

